

写真＝安部磯雄初代部長と創部初期の野球部員たち

早稲田大学野球部創部の歴史

―― 限られた環境の中で始まった、早稲田野球の原点 ――

早稲田大学野球部の歴史は、1901（明治34）年、早稲田大学の前身である東京専門学校の時代に始まった。当時の学校は現在のような大規模な大学ではなく、校舎もわずか数棟しかない小規模なもので、運動施設も十分に整備されていなかった。野球やテニスといった屋外スポーツは正式な活動として認められておらず、学生が野球を楽しむ環境はほとんど存在しなかった。

早稲田大学野球部のはじまり

そのような状況の中、高等予科に入学した若い学生たちが中心となり、野球部の創設に向けて動き始めた。郁文館中学校出身の大橋武太郎や青山学院出身の橋戸信ら、各地の中学校で野球経験を積んだ学生たちが集まり、自ら会費を出し合ってミットやバットを購入した。こうして早稲田で初めて「野球部」と呼べる組織が誕生したのである。

草創期の環境

しかし、創部当初の環境は決して恵まれたものではなかった。練習場は現在のグラウンドの4分の1ほどの広さしかなく、地面は凸凹で草が生い茂っていた。周囲には竹やぶや民家があり、打球が飛び込むと練習や試合を中断して全員でボールを探さなければならなかったという。時には近隣住民から苦情を受けることもあった。

学生たちの情熱

また、創設されたばかりのチームには明確な規律や組織体制もなく、実力もまだ発展途上だった。早稲田中学校との試合では大差で敗れることも多く、「弱助（よわすけ）」とからかわれるほどだったと伝えられている。それでも、部員たちは野球への情熱を失うことなく活動を続けた。

伝統の礎

現在、早稲田大学野球部は東京六大学野球を代表する伝統校として多くの名選手を輩出している。その輝かしい歴史の原点には、限られた環境の中でも野球を愛し、自らの手でチームを築き上げた創部メンバーらの熱意と挑戦があったのである。